

授業・研究ノート

# 幼児教育コース・音楽ゼミの取り組み

善 本 桂 子\*

去る2008年12月20日、本学幼児教育コース・音楽ゼミ4年生8名は、児童教育コース音楽専修の学生と共に、アステールプラザ多目的ホールに於いて、学外卒業演奏会を無事終えることができた。

私が本学へ赴任して5年経つ。その中で、今まさに、自信と誇りを身につけて社会へ飛び立っていく五度目の卒業生を送り出そうとしている。学生たちは、4年次において、卒業演奏と卒業論文の両方に取り組んでいるが、今回は、その一年半にわたる取り組みについて報告する。

本学では現在、学生が2年次に進級するとき、本人の希望によって、児童教育・教育心理学・幼児教育の三つのコースに分かれる。幼児教育

コースにおいては、2年次より、幼児教育に必要な専門知識や技術の習得が始まるのである。その中で、2年次3年次にわたる2年間、「幼児教育学演習Ⅰ～Ⅳ」という、いわゆるゼミが行われる。演習Ⅰ（2年前期）では、幼児教育入門といった性格を持つ学習に取り組む。同Ⅱ及びⅢ（2年後期、3年前期）では、四つのグループに分かれ、4人の教員が担当して同時進行する。学生は、半期の半分のところで入れ替わっていくことになる。1年間で、それぞれの専門性を活かした四つのゼミを経験する。最後のⅣ（3年後期）において、学生は4年次の卒業論文を見据えて、本人の希望により、専門性を高めつつ、自分の方向性を見つめて、5人の

年次	1 年次	2 年次		3 年次		4 年次	
ゼミ	教育について幅広く学ぶ コース専修分け希望調査 コース専修決定	幼児教育学演習				レジュメ発表、演奏発表	卒論ゼミ 学生の希望により、初等教育学科全教員に振り分ける音楽は、卒論・演奏 2 コマを使い、学びを深める
		I 幼児教育の基礎を学ぶ	II 4 つのグループに分かれ、4 人の教員のもとで、各専門の学びをする	III 学生 5 人の希望により、教員の学びを深める	IV 学生 5 人の希望により、教員の学びを深める		
		教育実習 Ⅶ		保育実習 ⅠⅡⅢ		教育実習 Ⅱ	保育実習 ⅠⅡⅢ
実習							
演奏会					卒業演奏会 会場予約	卒業演奏会 (学外)	卒業演奏会 (学内)

図1

\* 本学准教授

教員の下で学びを深める（図1参照）。

現在音楽ゼミでは、3年生9名、4年生8名が集まり、共に学びを深めている。彼女たちは、「音楽ができる」からではなく、「音楽が好き」だから集まってきたという傾向が強い。

3年後期演習Ⅳにおいて、ゼミに集まった学生たちは、まず「仲間作り」をする。とにかく楽器の演奏は、舞台上がり独りで演奏する機会が多いが、ここでは、将来子どもたちと共に歩むために、コミュニケーションを取る力を養うことから始める。まわりを見て、友人と一緒に、一つの曲を創り上げていくことを勧める。向かい合わせになった2台のピアノにそれぞれが座り、目を合わせ、心を合わせて同時に音を出そうとする。はじめは、声をかけ、合図をして、音を出そうとしても、息が合わない。同じ時、共に呼吸し、心を合わせなければ、同時に音を出すことはできない。「2台ピアノ」または「2台4手」、「2台8手」。学生は向かい合わせに置かれた2台のピアノの前に座り、何メートルも離れた相手と二人または四人で一つの曲を創り上げる経験を通して、コミュニケーションの力を養う。

昨年度はこの後、「ヴァイオリンを習いたい」という声が上がリ、非常勤講師の先生にグループで3回ほど教えていただくことができた。全員で一台ずつヴァイオリンを持ち、楽器に触ることからはじめ、構え方、音の出し方を学んでいった。ピアノは「ド」の音を弾くとその音が鳴るが、ヴァイオリンはそうはいかない。左手で弦を押さえる位置によって、微妙に高さが違ってくるのである。なかなか全員で同じ高さの音を出すことができず、音を創ることの難しさを味わうことができた。演習発表会では、8台のヴァイオリンによるバッヘルベルの「カノン」に挑戦し、聴いていただくことができた。

今年度は、歌と合奏をしたいということになり、「ハッピーチルドレン」という曲を決めた。CDを聴き取って楽譜を書いたり、ギターやドラムなど楽器の担当を決めたりして、練習に励み、1月末に発表する。

学外で行われる卒業演奏会は、教員、保護者、親しい友人などに案内状を出し、聴いていただく機会を持つ。学生は、1年前（3年次）から徹夜をして、会場を予約する。そして3年生は、4年生のリハーサルから参加し、卒業演奏会本番を陰で支える。舞台上がる先輩の姿を追いながら、ピアノを弾きたい、連弾したい、楽器を演奏したい、歌を歌いたいなど、1年後の自分の姿を想う。同じ時期に、学生たちは卒業論文のテーマを考え始める。演奏と論文のどちらにウェイトをおいて進めるのか、考えていくのである。

人前で演奏するためには相当練習をしなければならない。何日も楽器に触らないと、勘が鈍る。毎日の練習が、出来を大きく左右する。空きコマを使ったり、週末に学校へ来たりして練習する。思うように弾くことができなくて涙を流すこともある。しかし、練習をしたからとて、舞台上がると完璧な演奏ができるとは限らない。さまざまなプレッシャーと戦いながら、一生懸命演奏するのである。

卒業演奏と違い、卒業論文については、なかなかテーマが決まらないようである。先輩の卒論を読んでゼミで発表し、友だちの意見を聞き、改めて知ることが多い。音楽に関すること、楽器について、また子どもの生活と音楽に関すること、わらべうたや唱歌など、身近なところに目をつける。各自がさまざまな場面で音楽と触れ合ってきた経験から、自分のテーマを探し、資料集めをして、卒論に取りかかる。

学生たちは、3年次後期授業が終わり、2月

から3月にかけて、12日間または24日間の保育実習（保育所または施設）を行う。指導案を書き、設定保育を行うほか、ピアノを弾いたり、子どもたちと一緒に歌ったりして、音楽を通して積極的に子どもたちと関わっていくという貴重な体験をする。その経験が、卒論テーマの選択に繋がることが多い。

ここで、過去3年間の卒業論文の題目の一部を掲げる（表1参照）。学生が、自分の選んだテーマに沿って、文献・資料集めをし、ゼミ内で討論し、書き上げたものである。

表1

2006年度卒業論文

学校生活における音楽の効果
子どもの生活と楽しいこともののうた
沖縄の音楽と子ども ～ウチナーンチュの心～
音楽と癒し ～モーツァルトが心に与える影響～
子どもの歌唱能力について など

2007年度卒業論文

子どもと観たい！ミュージカルの魅力
心に響く賛美歌
子どもに伝えたいわらべうた
子どもがはじめて出会うピアノ
幼児と楽しむリトミック など

2008年度卒業論文

3拍子についての一考察
日本古謡「さくらさくら」
子どもと楽器
身近な音楽による癒し
幼児期から音楽に親しむ子どもたち
音楽が睡眠時に与える影響
言葉の発達と音楽について
音楽と脳と心のつながり

4年次になると、彼女らはたいへん忙しくなる。卒業演奏会で演奏する曲を決め、練習に取りかかる。卒論について、調べたことを発表するゼミと、演奏のためのゼミ、毎週2コマを使う。練習や卒論が思うようにはかどらないことがある。そのような時、一緒に練習に励んできたパートナーと、ゼミの中でお互い励まし合い、

長いトンネルを抜けていくようである。卒論を書きながら練習に励み、就職のための実習、勉強と、複数のことを同時に行っていくのである。卒業論文・演奏については、私だけではなく児童教育コース新宅教授のご支援を仰ぎ、声楽や管楽器については、非常勤講師にレッスンのお願いをすることがある。

来る1月28日には、4年生が学内で卒業演奏会を行い、再び3年生が支える。学外、学内で同じ曲を演奏する者。全く違う曲を選曲した者。また楽器を変えて演奏する者。さまざまである。今年は全員が、連弾もしくは2台のピアノに挑戦する。何度も何度もくり返し、練習を重ねている。また、合奏や合唱など、幼児教育コースらしい演出も考えているようである。学外の卒業演奏会から一ヶ月。今回は、学内でお世話になった先生方、職員の方々に聴いていただくことを目的とし、みんなで心をつなげて練習に励んでいる。複数の曲に取り組みながら、卒業論文を完成させ、本当にたいへんな時間を過ごしてきた学生たちを労いたい。

ここからは視点を変え、在学生や卒業生の声を紹介することにしたい。以下の三名である。

音楽ゼミに入って学んだこと

平成18年入学 26期生 3年Tさん  
(愛媛県西条市出身)

音楽ゼミに入って半年が経ちました。ピアノや歌、トランペットにギターなど、とにかく音楽が好き、仲間が好き、そんな9人の仲間と、親身になってくださる先生との、週に一度のゼミの時間は、とても楽しく、学びの深い時間です。その中で私は、一番に、みんなで音楽をする喜びを味わうことができました。この半年の間、ピアノ独奏だけでなく、ピアノ2台による演奏や合奏、合唱、歌の伴奏などにも取り組んできました。中でも、はじめて挑戦したピアノ2台による演奏は思った以上に難しく、相手の音が聴けるようになるまで時間がかかりました。相手と目と目を合わせ、自

分の目と耳を最大限に使って、相手の音を聴くことに集中します。そして、合わせることが難しい分、ピタリとお互いの息が合ったときほど嬉しいことはありません。

2台による演奏だけでなく、合奏や合唱、歌の伴奏など『誰かと音を奏でる』ということに挑戦したことで、様々な刺激を受けました。一人でもできる音楽。それをあえて二人や大勢で表現することで、新しい魅力に気づくことができました。相手の音を聴くために、できる限り神経を研ぎ澄まし、緊張感の中でまた、自分を再確認する。相手の音を聴くことで、少しずつ相手のことを知り、再び自分のことを知っていく。それが音楽の喜びなのかなと感じ、ますます音楽が好きになった半年間でした。

#### 音楽ゼミでの活動を振り返って

平成17年入学 25期生 4年Mさん

(島根県松江市出身)

三年次の後期、音楽が大好きな仲間が集まってゼミがスタートした。しかし、その頃から不安を抱えている人もいた。音楽は大好きだけれど、自分には実力がない。そんな自分が、これからのゼミで本当にやっていけるのだろうか……。それぞれが期待と不安を持って、ゼミの活動をスタートさせた。しかし、ゼミが始まって一年半。今こうして、学外の卒業演奏会を無事に終え、卒業論文の完成と学内での卒業演奏会に向けて、追い込みに入っているところである。ここまで来るのに本当にたくさんの出来事があり、本当に濃い一年半だったが、何とかみんなでやっていくことができた。それぞれが様々なことで悩み、苦しんだが、気にかけて声をかけてくれる仲間の存在や、ゼミ室でのたわいのない話が、いつも元気をくれた。みんなで過ごしたこの一年半は、一生の思い出に残る、大切な時間である。

そして、音楽を通して学んだこともたくさんある。初めて触ったヴァイオリンでは上手いかず、悪戦苦闘の日々だったが、全員で心をつにし、素敵な「カノン」を奏でようと一人ひとりが頑張った。初めて経験したピアノ2台4手では、音を合わせるには、お互いの音を聴くと共に、お互いの気持ちを感じ合わなければならないことを学んだ。そしてこの時、気持ちが重なり、音がピッタリと合ったときの喜びも感じることもできた。苦手な歌にも挑戦し、素敵なハーモニーを奏でることもできた。こうした学びを通して、音楽は一人でも楽しめるが、大勢で楽しむこともできるのだということを改めて感じることもできたのである。

こうした経験を積み、卒業演奏会ではそれぞれがソロ曲に加え、連弾にも取り組んでいる。全員で合奏と合唱も行う。これまでのゼミでの学びを一人ひとりが思い返しなが、そして、これまでの思いを演奏に込めて、私たちにしか創れない音楽を奏でていきたい。そして思い出に残る素敵な演奏会にしたいと思う。

#### 音楽ゼミで学んだこと

平成16年入学 24期生

広島市立保育園勤務 保育士Kさん

(島根県益田市出身)

私が3年次に音楽ゼミに入り、卒業するまでに学んだこと、卒業後に感じたことを振り返っていきなと思う。

まず、私たち24期生音楽ゼミのメンバー8人が行ったことは、仲間作りです。音楽のことだけでなく、日常の些細なことまで話をし、コミュニケーションをとってきました。また、2台4手の連弾もコミュニケーションの一つとなりました。相手の思いを汲み取り、自分の思いを伝えていくことの難しさ、そして喜びを感じることができました。また、全員で行ったロビーコンサートでは、みんなで一つの音楽を創り上げる楽しさを存分に味わうことができました。これらのことは就職してからも、他人とコミュニケーションをとる上で、私の基礎になっていると思います。

卒業演奏、卒業論文に追われ、私たちは1日のほとんどの時間をゼミの仲間と過ごしました。一緒に就職試験の勉強会を行ったり、遅くまで学校に残り、練習や卒業論文に取り組んだりしました。どれも、一人では頑張ることができなかったのではないかと思います。仲間と一緒にいたからこそ、最後まで頑張ることができました。

今こうして、学生や卒業生から寄せられたものを読みながら、それぞれの学年と過ごしたことを思い返している。

「音楽が好き」で集まった学生たちが、時間をかけて仲間を作り、音楽を通じて視野を広げ、心を開いていることが分かった。しかし彼女たちが、当初不安を抱えて過ごしていたことも明らかになった。ゼミの中で、またゼミの時間だけでなく共に学生生活を過ごすことで、励まし合い、支え合いなが、音を合わせることから

学んだことを役立て、保育者となる心構えを持ち続け、夢を実現させてくれていることに喜びを感じている。

「音楽」とは、「音を楽しむ」と書く。音を楽しむ方法は数多くある。耳に入ってくる音を心地よく聴くこともその一つである。しかし、聴いて受け止めた多くのものを、自分の中で咀嚼し、自分なりの音で表していくこと、そしてそれを他に認めてもらうことで、喜びや自信に繋げていくのである。これも音を楽しむ一つの方法である。学生たちは互いに音を聴き合い、受け止める。そして自分の音を出す。再び聴く。次は合わせようとして再び音を出す。この繰り返しによって、音や心を合わせることを学んでいる。そしてこれは音や音楽に留まらず、社会での生活や、他者との関わり合いの中でコミュニケーション能力としてさらに育まれる。

幼稚園教育要領「表現」のねらいに、「豊かな感性」「表現して楽しむ」「イメージを豊かに」など、気持ちや心に関する文言がある。小さなことにも感動することができる、豊かな感性を持った子どもたちを育てていく保育者になるには、まず自分が感動する心を持っていなければならない。二つの音が同時に鳴って、一つの音になったとき味わう小さな感動。これが相手と共に味わうことで大きな感動へと膨らんでいく。そして仲間たちと共に味わうことでさらに膨らむ。豊かな感性を持ち、子どもたちと共に感動できる保育者になって欲しい。

このたび、自ら音楽ゼミの取り組みについて振り返ってみた。このゼミは、彼女たちが自分を見つめ、社会へ出る前の大切な時間として過ごしていること、夢を実現させるための一助となっていること確信した。

3年生には、学外、学内の卒業演奏会を支えてくれたことに感謝すると共に、1年後の自分を描いて、最終学年を有意義に過ごして欲しいと願っている。ゼミの中で多くの時間を仲間と共に過ごし、コミュニケーションをとることで、自らについて振り返り、将来の自立に繋がる時間となることを望む。

4年生は、今まさに社会へはばたこうとしている。多くの不安を抱えていると思われるが、ゼミで学んだ多くのことや、共に学んだ友と励まし合って、社会人1年目を乗り切ることができると思う。

また卒業生のみなさんは、音楽ゼミで過ごして得たことに、自信と誇りを持って、日々子どもたちと笑顔で過ごす保育士であって欲しい。

学生がゼミで学ぶ以上に、私自身学生からさまざまなことを学んでいる。今後は、学生同士が横のつながりを作って、お互いの個性を尊重しながら学んでいることが、それぞれの場で自立に結びつくよう援助していきたい。さらに一人ひとりの学生と時間をかけて向き合い、音楽を媒体にしたコミュニケーションの場を創っていきたいと考える。

学生の技能レベルアップを目指すことを目標にし、それを支えることを今後の課題にしたい。

このページには写真が 8 枚あります

- ・ 26期生音楽ゼミ 3 年生
- ・ 26期生「ハッピーチルドレン」の演奏
- ・ 26期生合唱
- ・ 25期生リハーサル
- ・ 25期生リハーサル
- ・ 25期生リハーサル
- ・ 2009年1月28日 25期生学内卒業演奏会
- ・ 2009年1月28日 25期生学内卒業演奏会